

ボランティア ニュース

No.372

能登半島地震災害 復興支援ボランティアに 参加して

「恩送り」

みんなの助け合いを つなげていこう

大野地域でのボランティア活動に協力いただいている「大竹・大野地区マツダOB会」。庭の雑草取りや簡単な、かたづけなどできる範囲で困っておられる人のお手伝いをされています。会長は殿納基靖（とのうもとやす）さん。殿納さんは今まで、各種ボランティア活動されていましたが、能登半島地震の災害復興ボランティア活動にも参加されています。

殿納さんから3月に初参加された際のお話を伺いました。

3月上旬に七尾市で4日間、3月末に珠洲市で2日間の活動です。災害復興支援、それも石川県という遠方で活動するのは初めてでした。

自分に何ができるか不安はありましたが、現地では災害復興という志を同じくする仲間と出会い、助け合いながら、被災した家屋での、瓦やブロック塀などの瓦礫撤去・損壊した家財の搬出に取り組みました。報道で見た惨状、倒壊した家屋や断裂した路面の他に、外見は大丈夫でも内部は被災して生活困難な家屋は衝撃でした。被災された人からの「助けにきてくれてありがとう」という感謝の言葉、能登の高校生が復興応援に駆け付けた人に向けた言葉「恩送り」これらの言葉は心に染みしました。恩を返すだけでなく他へ繋ぎ抜けて行くことを大切に実践したいと思っています。



大竹・大野地区マツダOB会
会長 殿納基靖さん



ボランティア送迎バス



仕事量に基づき6~10人のチームを編成し
ボラセンと連絡調整をしながら活動しました

大野西小学校 福祉学習

5月1日と6月6日、19日の三日間、大野西小学校6年生の皆さんが福祉、ボランティア活動について学びました。

市社協職員が「福祉とは？」について説明を行い、点訳グループ「てのひら」の皆さんと視覚障がいのある植原鈴枝さん、手話サークル「かざぐるま」の皆さん、障がい児(者)相談支援事業所「みんなの手」の先生と市社協職員で、「点字」・「手話」・「車いす」・「認知症の人への声掛け」など「福祉」をテーマに学習しました。

点字の体験では、事前に用意してもらっていた「今、頑張っていること、これからやりたいこと」をテーマに皆さんが「遊園地へ行きたい」「素振りを500回頑張っている」など、それぞれの思いを点字で打って植原さんに読んでもらいました。初めは「自分の点字読んでもらえるかな？」と



点字を打つ体験。「ポツポツ、音と感触が気持ちいいね」

不安そうだった子ども達でしたが、読んでもらえて喜んでいました。

手話の体験では、手話を覚えて自己紹介をし、隣のお友達にあいさつをしていました。

最後は、手話歌「にじ」を歌いました。

市社協から「福祉とは、普段の暮らしの幸せ」と伝え「困った人がいたら助けてほしい」ことをお願いすると、みんな当たり前のように「困っていたら助けるよ!」と答えてくれました。

地域や学校にたくさんの悩みや生きづらさを抱えた人がいます。そんな時、寄り添っていけるような地域になれるようこれからも一緒に考えていきましょう。



指文字は向きがあります。「ちょっと難しいな」



手話ができなくても、目を見て口を大きく開けて話してくれたら、分かりますよ! 表情も大切です

廿日市高校との交流会

手話サークルかざぐるま

「今までに困ったことはありませんか?」緊急放送などが聞こえませんが、たとえ手話ができなくても一緒に手を繋いでくれたら嬉しいです。野地さんの手話を使ってお話に、生徒の皆さんは表情もすっかり見えていました。「限られた時間でしたが、聴覚に障がいのある人の生活に必要なことがわかりました。家に帰ったらテレビの音も消して聞こえない時間を体験します。」生徒の皆さんの表情が、さらに優しくなっていました。

車いす貸出事業



廿日市社会福祉協議会では、車いすの貸し出しを行っております(最大一か月)。市在住者で緊急一時的に車いすが必要な人、車いす体験等、学校や地域における諸行事で必要とする、入院先の病院、または入所している福祉施設等から一時帰宅する、旅行、レク等で使用する時も貸出対象です。介護保険の要支援または要介護認定者は原則対象外ですが以下の場合には貸出します。(認定者であっても緊急性の高い場合、介護保険申請中もしくは将来的に申請を考えていて車いすが手元になく練習したい、等) ご相談ください。